

道徳便り

鹿島小学校
道徳便り No.2
令和5年11月24日

今年度の道徳教育における重点項目の一つである「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を主題として、高学年の研究授業が行われました。その様子をお知らせします。

第3回研究授業 6年2組 9月8日

○教材名「もてなす心」

○内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

○授業の概略

始めてお茶会に参加した主人公が、茶道という伝統文化の中にある、相手に対する細やかな心づかみやもてなす心に気付き、そのよさを感じ取り、受け継いでいこうとする気持ちを持つようになった教材を通して、日本の様々な伝統文化を多面的に考えさせ、その中にある日本の「もてなす心」を受け継いでいこうとする心情を育てる授業です。

○授業を振り返って

子どもたちは、「お茶の心」という教材を読んで、茶道の作法は難しいというのではなく、茶道具、和菓子、お茶の出し方、いただき方、部屋を飾るお花や掛け軸など、どれも、もてなす側ともてなされる側が相手を気づかい、もてなす心があることに気付くことができました。

また、茶道以外にも、自分たちの身の回りにどんなおもてなしがあるかを考え、話し合いました。家に来るお客さんにお茶やご馳走を出してもてなすこと、旅館やホテルでのおもてなし、お店の店員さんがお客さんに対して丁寧な言葉や態度で対応するなどがあることを見つけました。

授業の最後には、ゲストティーチャーとして、本校ALTのサラ・ジョーンズが、外国にはない、日本の「もてなす心」が表れている身の回りの様々な場面を紹介しました。

数百年も前の昔から現代に至るまで受け継がれてきた日本の伝統的な「もてなす心」に改めて気づき、自分たちもそれを受け継いでいこうとする心情が高まったようです。

○学習の振り返り（児童の感想）

- ・ 一期一会という言葉大切に、誰にでも平等に、もてなす心を生活の中に生かしていきたい。
- ・ 誰に対しても出会いを大切に、心づかいを大事にしたい。もてなす心を大切にしていきたい。
- ・ 日常生活の中でも心を伝え合えるように、もてなす心を大切にしていきたい。



第4回研究授業 5年2組 10月30日

○教材名「ふるさとのほこり」

○内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

○授業の概略

第二次世界大戦後、資金不足で解散の危機に合ったプロ野球球団「広島カープ」を救った広島市民の姿や思いを描いた教材で、原子爆弾が落とされた広島の人たちにとって、「広島カープ」は復興の象徴でもあり、生きる希望でもあった思いを学習することを通して、郷土の伝統や文化を守り、受け継いでいこうとする心情を育てる授業です。

○授業を振り返って

子どもたちは、「ふるさとのほこり 広島カープ」という教材を読んで、戦後の広島の人たちが、貧しい中でも広島カープのために募金した理由を考え、「広島カープ」を応援する、広島の人たちの思いに気付くことができました。

また、自分たちの地域の誇りについて話し合いました。子どもたちは、地域の伝統的な祭りである相馬野馬追や、鹿島の火伏祭りなどを挙げました。サーフィンの聖地という子もいました。

授業の最後には、ゲストティーチャーとして、本校の川島るみ教諭が相馬野馬追について話しました。川島先生のご親族が野馬追に出ていたそうです。昔の野馬追の写真を紹介し、今も続いている地域の伝統的な祭りであること、東日本大震災の後、相馬野馬追を行うために、騎馬武者会の人たちを初めとする地域の人々が努力したこと、今は、ご親族の息子さんが受け継いでいることなどを話しました。

昔から現在に至るまで受け継がれてきた郷土の誇りや伝統的な文化を守り、自分たちも受け継いでいこうとする心情が高まったようです。

○学習の振り返り（児童の感想）

- ・ 今までは、地域の誇りなんて考えたことがなかったけれど、お話を読んで地域のことを考えるようになった。
- ・ 相馬野馬追を続けることは、とても大変だったんだなと思いました。
- ・ どんな地域でも誇りがあって、長年続けられているから、なくしてはいけないということが分かった。
- ・ 自分たちの地域の誇りとは、皆が一つになって、ずっとずっと続けていくものだと分かった。

